



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.87
2017年 10月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

新しい試み

皆さんこんにちは。10月カンボジアは雨季です。雨は午後から降り始めることが多いのですが、今年は例年に比べると雨の量が少なく、ため池の水が貯まるスピードが遅く感じました。降る時間帯も深夜や早朝に降ることが多く、例年に比べてまとまって雨が降る機会が少なかったように思います。今月の報告は農場での新しい試み、講習会の様子について報告します。



運転免許講習を申請するプロイ君(左側一番手前)

◇スタッフ運転免許講習受講開始

10月からスタッフのプロイ君が、運転免許取得のために運転免許講習所に通い始めました。現在カンボジアスタッフの中で車の運転免許書を持っているのはスタッフリーダーのチャンダー君一人だけです。将来的に農場をカンボジアスタッフだけで運営しようとするれば、チャンダー君が休みの時に車を運転できるスタッフが必要になります。プロイ君にはチャンダー君の次の副リーダーになってもらうため、運転免許を取得してもらうことになりました。現在農場近くの市場にある講習所で1日1時間講習を受けています。新しい副リーダー誕生にとっても期待しています。



レモングラスを収穫するスタッフ

◇契約農家さん講習会

10月農家さん向け講習会は、新規契約農家のニエイさんの畑でレモングラスの収穫と選別作業を行いました。ニエイさんは農業を営みながら、山で木を切り、炭にして市場で売って生活費をまかっています。レモングラス栽培で安定した収入を得ることができれば、遠くの山まで出向いて、木を切ってくるの必要がなくなります。講習会には別の契約生産者のトオンさんも参加してもらい、自分の畑とニエイさんの畑を比べて見てもらいました。講習会にはニエイさんの子供たちも参加し、1.5時間ほどで65kgのレモングラスを収穫、選別しました。講習会の最後に、農家さんたちと食事会を開きました。



シュガーソルガム圧搾風景



蒸留鍋に発酵した糖液を入れるスタッフ



張り替えた休憩小屋

◇シュガーソルガム発酵・アルコール分留試験

10月はじめ、収穫したシュガーソルガムから、どれだけの糖液が取れるか試験しました。シュガーソルガムはアフリカ原産のイネ科の植物で、サトウキビのように茎内に多量の糖分を含んでいます。収穫したシュガーソルガムの重さは40.2kg。そこから機械で圧搾し取れた糖液は12Lになりました。これに市販の酵母と混ぜ合わせ、4日間倉庫に寝かせ発酵させました。徐々に液面に泡が発生し、酵母とは違う甘い香りがしてきました。おそらくですがアルコール発酵が進み、二酸化炭素が発生していると考えられます。

次に発酵させた糖液を蒸留鍋に入れ、焦げ付かないように水を加えて蒸留器に蓋をし、かまどに火を点けました。蒸留器内の温度はぐんぐん上がり、すぐにアルコールの沸点を越えて100℃になってしまいました。かまどに入れた薪の量が多かったことが原因で、残念ながら分留試験は失敗してしまいました。しかし少しでも採取できた分留液を舐めると、かすかにアルコール特有の匂いがあり、アルコール発酵が行われていたことがわかりました。

今回の試験の反省から、次の試験ではかまどに入れる薪の量を調節し、火力を抑え蒸留器内の温度が100℃を超えないようにして分留できるようにしたいと思います。

◇休憩小屋屋根張替え

10月農場にある休憩小屋の屋根を補修しました。元々はヤシの葉を重ねて並べた屋根がついていました。しかし度重なる強風と雨によって屋根の葉が飛んでしまい、ほとんどの葉がなくなってしまいました。今回ヤシの葉の代わりに、黒い防草シートを屋根に張り付け補修することにしました。ヤシの葉で屋根の補修をした場合、お金と時間がかかりすぎるためです。補修は農場スタッフが屋根の骨組みに上って細い針金を使ってシートを留め、シートを骨組みの上から被せるようにしました。ほとんど裸だった屋根はシートを被せたおかげで、見違えるようになりきれいになりました。